

---

# 猫耳ウイルス注意報

かぼちゃ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

猫耳ウイルス注意報

### 【Nコード】

N7366Y

### 【作者名】

かぼちゃ

### 【あらすじ】

普通の高校生の僕に猫耳が生えた！  
下ネタかましてくる幼馴染と  
引きこもりの幼馴染の姉

「あれお前猫耳生えてね？」  
「ばれたか？」

「へんたいだ——」

「なんでだ——」

「って感じで進んでいきます」

## 猫耳ウイルス注意報

やあ、僕の名前は長谷たける  
ごく普通の家にすむごく普通の高校生だ  
ベットからですまない今起きたところなんだ

「おい、朝飯リビングにできてるからな」

今のはうちのねーちゃん  
結構きれいなほうだと思うがおっさん臭さ100パーセント  
たばことギャンブルに命かけてる  
なのでまだ嫁に行かない

「ドーン!!」「」

今のはドアが全力で殴られた音である  
思ってることが伝わっちゃったらしい  
べ、別に怖くなんかないんだからね!!

ちなみにこの後彼女の出番はない

「たけっちー一緒にがっこーいこー」

こいつは最近隣のうちに引っ越してきた早矢掛 千春  
引っ越してきて一日目から一緒に学校に行こうと誘ってくる  
なれなれしい奴だ

ピンポーン

ピンピ・ンピンポーンピッピッピピンポーン

人ん家のチャイムでリズムを刻むな

「今行くから待ってるー」

そういつて顔を洗っていると頭の上から耳が生えてる

猫耳はえてる

落ち着けまだ大丈夫だ

まだオフタイムは残ってるはずだ！！

プルプルプルガチャ

「あ、もしもし先生ですか？ちょっと今日  
姉がなんかさらわれたんで休みます」

「「おう、そうか大変だろうけどがんばれよ」「」

僕が言うのもなんだが

この先生適当である

「たけちーまだー何してんだよーナニしてんのかよー」

最低だな！

しかしこいつのことを忘れていた

「お前ちょっと帰れ」

「なんで！朝から下ネタかましてごめん！あれ、でもそれでキレるってことは凶星、、、、」

こいつは無視してもいいか  
鍵かけとけば入ってこれないだろうし

「開けるよーさみいよー」

こいつは無視して解決策を模索しなければ

「はぐっはむっはむはむがっがっぶはっ  
やっぱりおまえんちのねーちゃんの飯はうまいな」

食い方きたなっ  
いや問題はそこじゃない

どうしてここにいるんだ千春  
そして僕の朝飯を食うな

「ど、どっからは言ってきたんだお前」

「割った」

「割った？なにそれお前怖っ！って何割りがあった！」

「おまえんちの窓」

「お前マジそこでおとなしくしてろよ  
警察読んでやっかなー！」

ふつと不敵に笑う千春

「おい、外みてみなって広い空を見上げれば  
窓叩き割って家に入ってくるくらいちっぽけな事だって」

それはない

「あつもしもし警察ですか」

「ちよちよちよーい」

なにそのへんな掛け声

つてかこいつ電話線引っこ抜きやがった

「あれお前何その耳・・・」

気付かれた、完全に忘れていた  
俺今生えてるんだった

「へ、へ、へ、変態だーーーー」

「なんでだーーーー」

（状況説明中）

「だからなるべく人に言うなよ」

「安心しロツテ、ワタシクチカタイ」

「片言！？お前ゼツて一人にあつたらこの事いうだろ  
残れ！ここにいろ！」

「えっそれって告白ノノ」

「なんでだよ！？」

「つかごめんもうねーちゃんに電話しちった」

「.....」

死んだ

「やっほ」

だれだよこの髪の毛の長いお姉さんは





うちのねーちゃんひきこもりで  
3年も部屋から出てこなかったのに  
お前の猫耳見たさに出てきたんだぜ」

「引きこもってた理由語ろうか？」

「おもいよ！？馬鹿とか言っでごめんなさい！」

「まあおれっちがねーちゃんのプリン食っちゃっただけなんだけどな」

「軽かった！！ってか三年もそれで引きこもってんかい！！」

「ごまプリン」

「？」

「ごまプリンだった」

「いたっ」

ボディブローを決めてくる

千春のおねいさん

「ねーちゃんを怒らせるとそのパンチを年単位で継続してくるかな」

「沸点低いな！？」

「あっ猫耳無くなってる」

「えっまじだ」

「よかったじゃんたけっちーくそっ面白かったのに」

「おいてめえ後半何言っつてやがる」

「あつ生えた」

本当だ千春の耳に猫耳がはえてる

「・・・」

「・・・」

「・・・」

「あつ俺学校いかなきゃ」

「あつ生えた」

今度は千春のおねいさんに生えた

「じゃあ」

「結婚してください」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7366y/>

---

猫耳ウイルス注意報

2011年11月22日02時00分発行